

「幸の税金」

—初稿—

2026/08/16

しのめ ののの

〈人物表〉

小平 武雄 (56) 飲んだくれ

小平 めぐみ (50) 武雄の妻

小平 美鈴 (17) 武雄の娘

1. 安アパート・外観（昼）

古びたボロアパート。

2. 小平家・居間（昼）

手狭な和室。壁や扉に、殴ったり蹴ったりしたような凹みや穴がある。

小平武雄（56）、発泡酒の缶を片手にテレビを見ている。傍の机には何本もの空き缶。

競馬中継が映っており、馬たちが次々とゴール。

武雄 「くそがつ」

泥酔した武雄、競馬新聞を床に投げつける。

居間と繋がる台所では、小平めぐみ（50）が夕飯の準備中。

小平美鈴（17）はダイニングテーブルで勉強している。

二人、武雄の声にちらっと何うような視線を向ける。

武雄 「なに見てんだっ。バカにしやがって」

と、発泡酒の缶を台所に向かって投げつける。

底に残った酒が少し飛ぶ。

めぐみと美鈴、反射的にびくっと怯える。

めぐみ、腕に広がる痣を思わず押さえるようにさする。息を整えるようにして吐き、料理を再開。

美鈴、泣き出しそうな、怒っているような表情。

突然立ち上がり、その場を離れる。

武雄、顔を真っ赤にして息を整えている。

遠くで玄関の扉が開き、美鈴が外に出て閉まる音。

3. 駅前・宝くじ売り場付近（夜）

さびれた小さめの駅。

武雄、ぶつぶつと悪態をつきながら徘徊している。ふと、こぢんまりとした宝くじ売り場が目に入る。

男性が一人、宝くじを買っている。

武雄 「けっ」

武雄、バカにした様子で去ろうとする。

と、宝くじを買った男性が、くじ券を1枚落としていく。

武雄、思わず周囲を伺う。誰も見ていないのを確認し、こっそりとくじ券を拾う。

4. 小平家・居間（昼）

武雄、くじ券を片手にテレビを凝視している。
めぐみと美鈴は不在。

テレビ画面には、当選番号と「1等 3億円」という言葉が映し出されている。

武雄、震える手でくじ券と画面を見比べる。

武雄 「あ、ああ……。当たった……。当たったあつ」

5. 高級料亭・店内（昼）

武雄、知人男性らと数人で乾杯している。

武雄 「今日は俺の奢りだからな。ありがたく飲めよ」

知人 「珍しいな。馬でも当てたか？」

武雄 「まあ、ちよつとな。おめーら貧乏人にも施してやらんと可哀想だろ？」

と、得意げな笑顔。

6. 海外カジノ・店内（夜）

武雄、海外のカジノで豪遊している。

ディーラーがテーブル上のカードをめくる度、一喜一憂している。

武雄 「うわーっ。負けたー。くそ、次こそ取り返すぞっ」

7. 高級キャバクラ・店内（夜）

武雄、何人ものキャバ嬢に囲まれて乾杯している。

テーブルには既に何本ものシャンパンが空いている。

キャバ嬢1 「え、何のお仕事されてる方なんですかあ？」

武雄 「ひーみーっ」

と、泥酔しデレデレ。

キャバ嬢2 「でもこんなに飲んで大丈夫なの？」

武雄 「きゅうにおかねいっぱい入ったからあ」

キャバ嬢3 「じゃあ奥さんも大喜びだ」

武雄 「……え？」

キャバ嬢4 「さっき言ってたじゃん。奥さんと娘さんいるって」

武雄 「……知るかよ」

キャバ嬢1 「ん？」

武雄 「あいつらなんか知らねーよ。俺のこと舐めやがって、感謝のひとつもしやがらねえっ」

一瞬、沈黙。

キャバ嬢2 「……かわいそう。つらかったんだね」

キャバ嬢3 「元気出して。飲も飲もー」

キャバ嬢たち、場を盛り上げようとする。

武雄、少し機嫌を取り戻し、グラスを煽る。

8. キャバクラ・店外（夜）

泥酔した武雄、ふらふらと店の外へ出てくる。

ぽつぽつと小雨が降り始めている。

歩き出そうとした時、ポケットの中のスマホが鳴る。

おぼつかない手で取り出すと、めぐみや美鈴から大量の着信とメッセージ。

武雄、舌打ちして、

武雄 「っせーんだよ」

と、ポケットに入れようとするもスマホは落下。

地面に叩きつけられ、画面が割れる。

武雄 「んだよ……」

と、スマホを拾うも起動しなくなっている。

武雄 「あ？ おい」

何度も画面を荒々しくタップしたり、スマホ自体を叩いたりするが反応しない。

武雄 「あークソッ」

苛立ちつつスマホをポケットに突っ込む。

遠くで小さく雷鳴。

大通りへ向かって歩き始めると、道端でいちゃつく男女が目に入る。

ホスト風の男性と地雷系の女性。女性のスカートが異様に短く、下着が見えそうになっている。

武雄、思わず一瞬釘付けになってしまう。

小さく雷鳴。

ホスト風の男性、武雄の視線に気づいて武雄を睨む。

男性 「おい。何見てんだよ」

武雄 「えっ」

女性 「え、なに？」

男性 「そのオッサンがじろじろ見てんだよ。おいてめえ、きらのパンツ見てただら」

男性、武雄に近づいてくる。

雨が強くなってくる。

武雄 「み、見るわけねーだろ。そんなブスッ」

女性 「あ？ ナマ言ってるじゃねーぞじじいッ」

女性が男性を追い越して、武雄にバッグで殴りかかってくる。

武雄 「いたっ。何すんだてめえッ」

と、女性を押し返す。

男性 「こっちの台詞だよ。セクハラに暴力。慰謝料払え」

武雄 「は？ そっちが先に手出してきたんだろッ」

女性 「先に見てきたのはてめーだろうが」

武雄 「何言って……」

男性 「ほら貸せや」

と、武雄のバッグをひったくり、財布を漁る。

男性 「あ？ 結構持ってるじゃん。オッサンなんなの？」

武雄 「お、おいッ。警察呼ぶぞ」

女性 「呼んでいいの？ そのナリでこんだけ金持ってるのおかしくね？ オッサンも後ろめたいことあんじゃねーの」

武雄 「んなもん、別に……」

と、ハッとして口をつぐむ。

× × ×

武雄が辺りを見回し、警戒しつつくじ券を拾う場面。

× × ×

武雄が缶を投げつけ、めぐみと美鈴が怯える場面。

めぐみが押さえている腕の痣。
美鈴の泣きそうな表情。

× × ×

大きな落雷の音。

武雄、ハッと我に返る。

雨が大降りに変わっている。

男性 「よっしゃ、これで飲み直そ」

女性 「その前にシャワー浴びたい」

金を抜いた二人、既に離れた場所を歩いている。

武雄 「おい待て、俺の金だっ。返せ」

と追いかけて、十字路に走り込んだ瞬間、横から走ってきた車に軽く轢かれる。

武雄 「った！」

武雄、地面に転がる。

車はそのまま走り去る。

武雄 「は？ いや、おい……」

武雄がよろよろと立ち上がりかけた時、武雄の真横に雷が落ちる。

武雄、茫然と凍りつく。

その場に座り込み、身も世もなく泣き始める。

大粒の雨が武雄に降り注ぐ。

9.

国際空港（朝）

バカンススタイルのめぐみと美鈴、キャリーバッグを手に搭乗口へ向かう。満面の笑顔。

その背中を見送った武雄、踵を返してとぼとぼと歩き去る。小さな背中が人ごみに消える。

おわり